

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 西区
学校名 大阪市立本田小学校
学校長名 今村 友美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになつた現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・本田小学校では、第6学年 109名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和7年度の本校の平均正答率は、国語科で65%であり、大阪市平均と比較して1ポイント低く、全国平均と比較して2.8ポイント低かった。算数科で58%であり、大阪市平均、全国平均と変わらない結果であった。また、理科で54%であり、大阪市平均と比較して1ポイント低く、全国平均と比較して3.1ポイント低かった。平均無回答率で、3教科ともに全国平均、大阪市平均よりも高かった点も、正答率に影響があったと考える。なお、児童質問紙調査では学校目標にも掲げている「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をした割合は91.0%と、全国平均、大阪市平均ともに大きく上回っており、教職員と子どもたちが同じ方向を進んできた成果がみられた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「A 話すこと・聞くこと」の正答率で大阪市平均、全国平均を上回ることができた。しかし、「B 書くこと」「C 読むこと」では大阪市平均、全国平均より下回り、特に「C 読むこと」に関して、書かれていることを理由にしてまとめて書く問題で、無回答が多いことがわかった。今後は、自分で読み取ったものを、根拠を示しながらまとめて書く活動に力を入れていきたい。

〔算数〕平均正答率では、大阪市平均も全国平均からも大きく変わらない結果であった。正答数分布グラフを見ても、3つのコブができており、学力格差が明らかとなった。特に正答数5問以下の割合も23%と多かった。引き続き、少人数での学習形態から基礎基本の定着を図り底上げを目指したい。

〔理科〕「知識・技能」を問う問題よりも、「思考・判断・表現」を問う問題のほうが正答率が高く、大阪市の平均正答率を上回った。記述式の問題に対しては、大阪市平均より3ポイント以上正答率が高かったが、無回答も目立った。標準偏差も4.3と高く、大阪市平均と比べても学力の2極化が進んでいることがわかる。「知識・技能」の定着のための時間を大切にしていきたい。

質問調査より

令和8年創立150周年をむかえるにあたり「めざす学校像」を、「子ども・教職員・保護者・地域 みんなでつくる本田小学校」とし、「ここがわたしの学校です」と誇りをもっていえる学校づくりに取り組んでいる。いじめについては、「いじめは絶対にしない、させない、許さない」の姿勢を貫いてきた。児童質問紙調査「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をした割合は91.0%と非常に高く、教職員と子どもたちが同じ方向を進んできた成果がみられた。今年度、力を入れて取り組んだ総合的な学習の時間についての児童質問紙調査に対しても、肯定的な回答をした児童が83.7%と高く、大きな成果が得られた。また、「お互いを認め合える」児童の育成にも力を入れて取り組んできた。児童質問紙調査「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」に対して、肯定的な回答をした児童が93.7%と高く、教員の日々の授業の工夫と、人とのつながりを重視した教育活動の成果であると考える。

今後の取組(アクションプラン)

本校の目指す「お互いを認め合える本田っ子」の育成に向けて、「いじめは絶対にしない・させない・許さない」姿勢と指導を重ねていくこと。また、総合的な学習の時間を通して表現する資質・能力の育成についても、継続して取り組んでいきたい。各教科で明らかとなつた二極化する子どもの実態に合わせ、講義形式の一斉授業だけでなく、探究的な学習、単元内自由進度学習や『学び合い』など多様な学習形態を取り入れながら、学びに向かえる時間の確保をしていきたい。そのために校内研究では『学習の個性化』に焦点をあて、チームで取り組んでいく。子どもたちそれぞれの現在地から少しでも学習を楽しみながら成長していくように支援する方法や理論を、教職員で学んでいく機会を今後も増やしていきたいと考える。

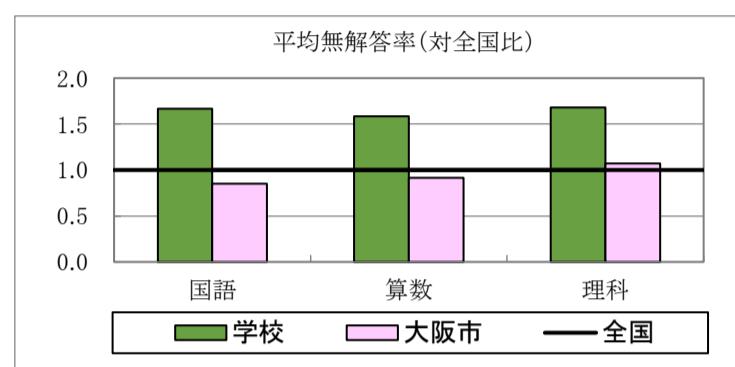
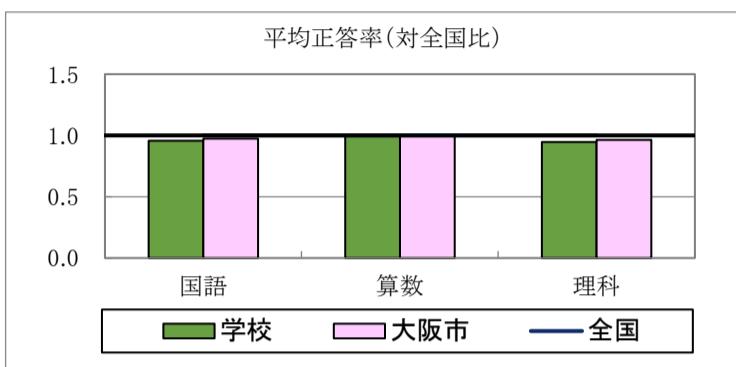
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	64	58	54
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	5.5	5.7	4.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



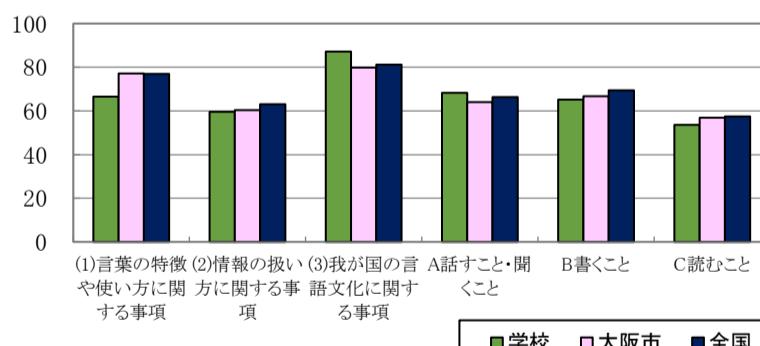
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	66.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	59.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	87.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.2	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.1	66.7	69.5
C 読むこと	4	53.7	56.9	57.5

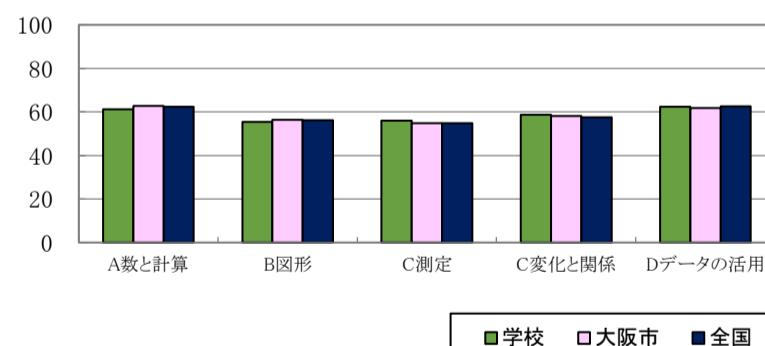
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	61.2	62.7	62.3
B 図形	4	55.5	56.4	56.2
C 測定	2	56.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	58.7	58.2	57.5
D データの活用	5	62.4	61.9	62.6

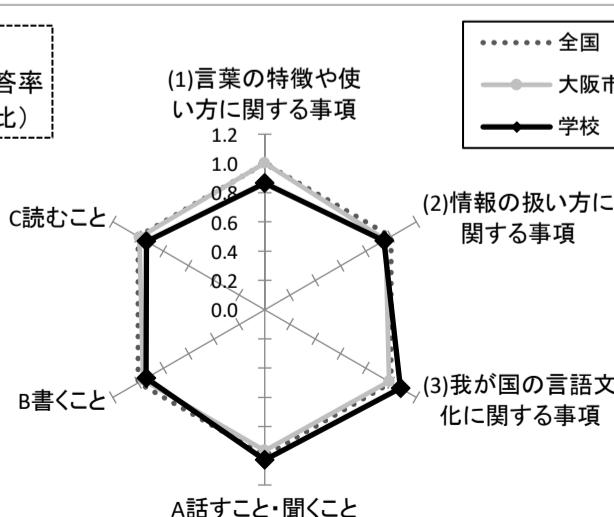
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



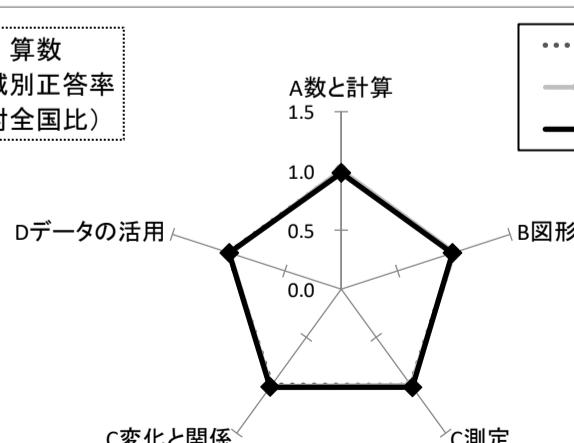
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率(対全国比)

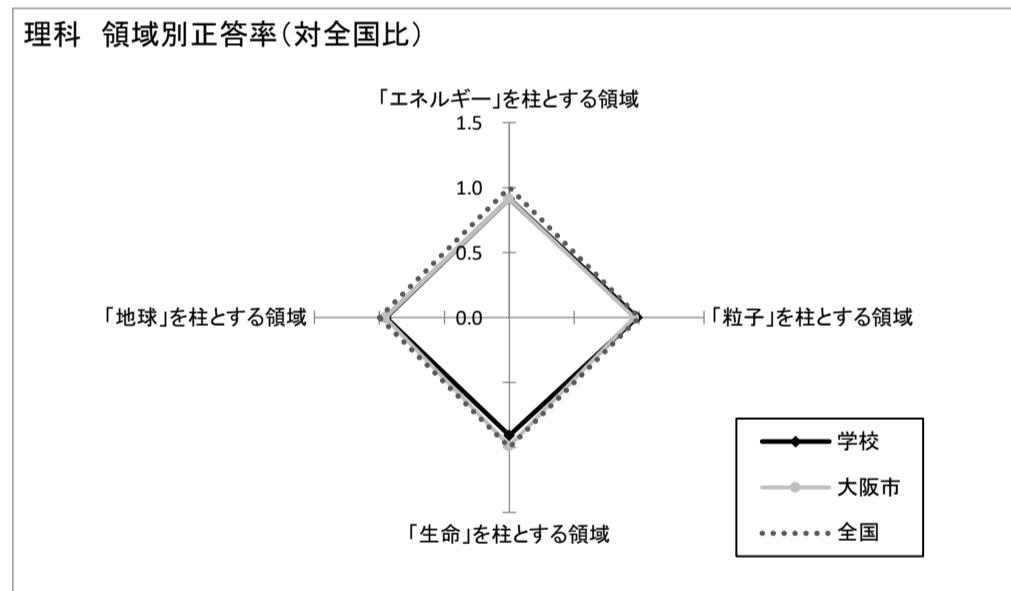
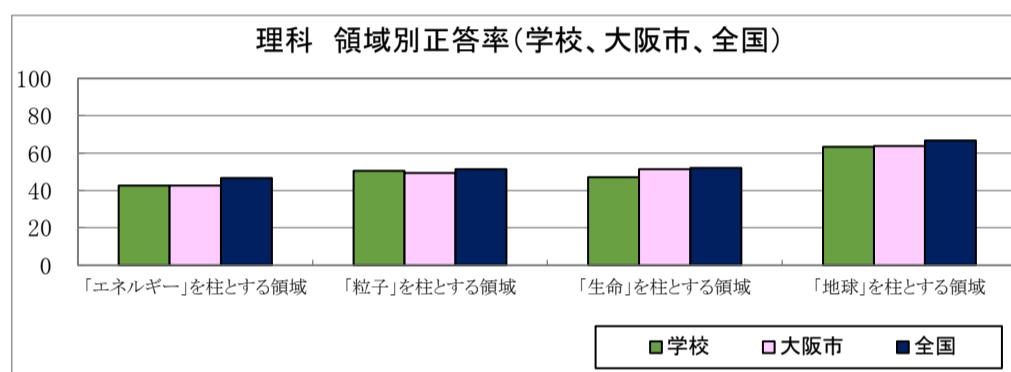


算数 領域別正答率(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	42.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	50.6	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	47.2	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	63.3	63.8	66.7



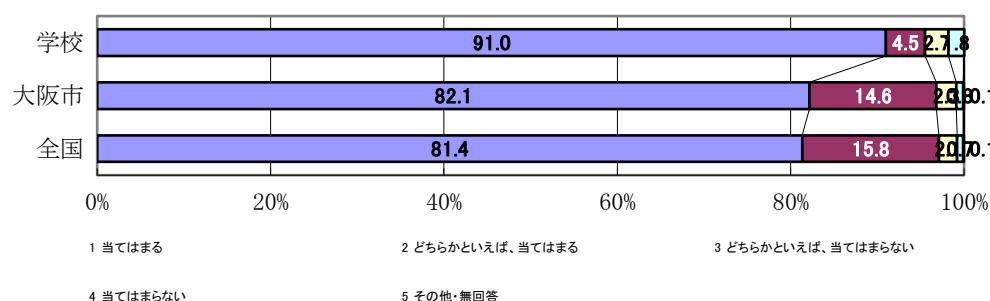
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

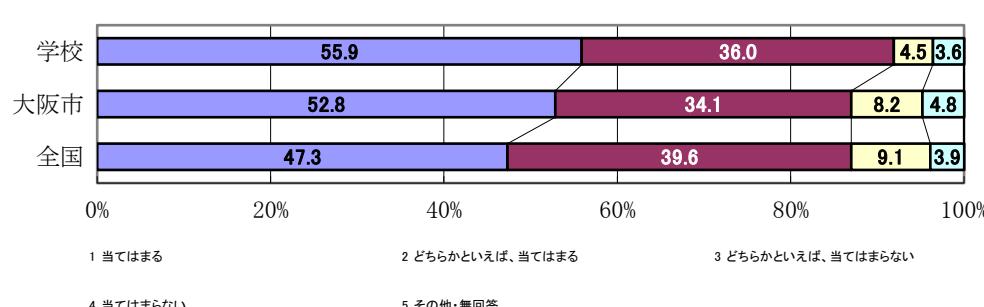
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



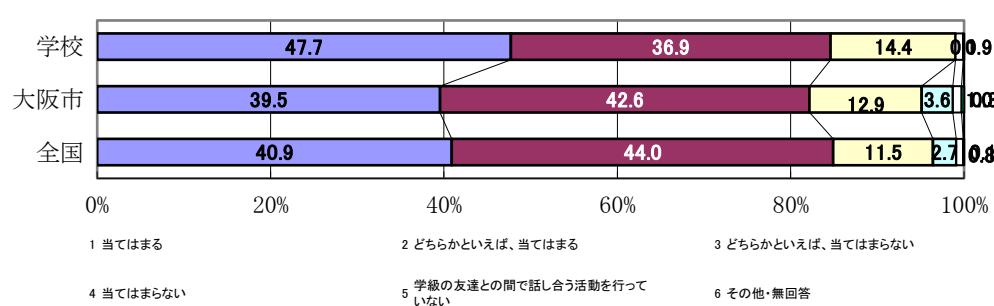
5

自分には、よいところがあると思いますか



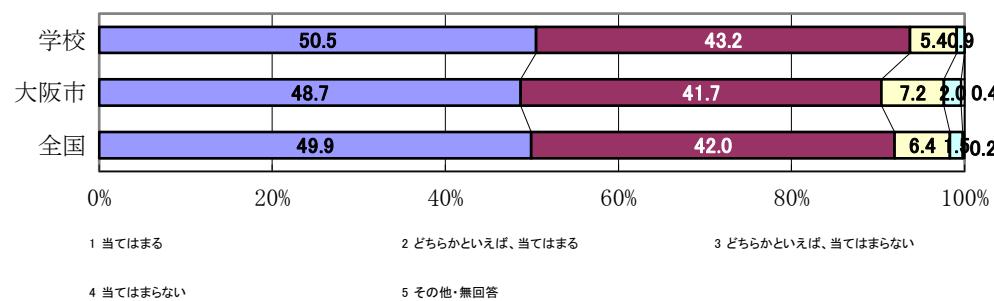
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



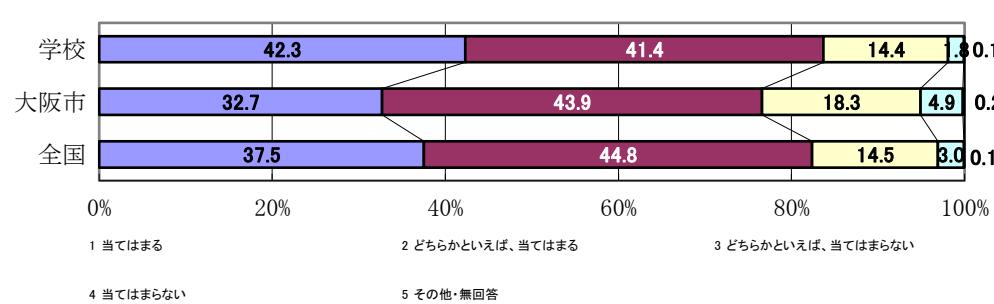
39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



40

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



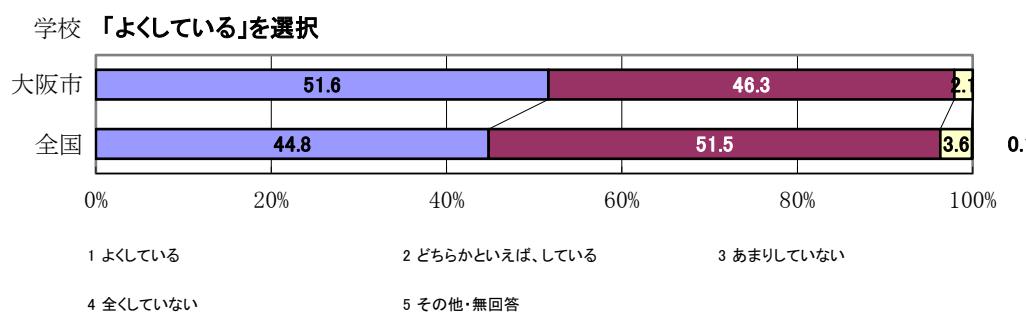
学校質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

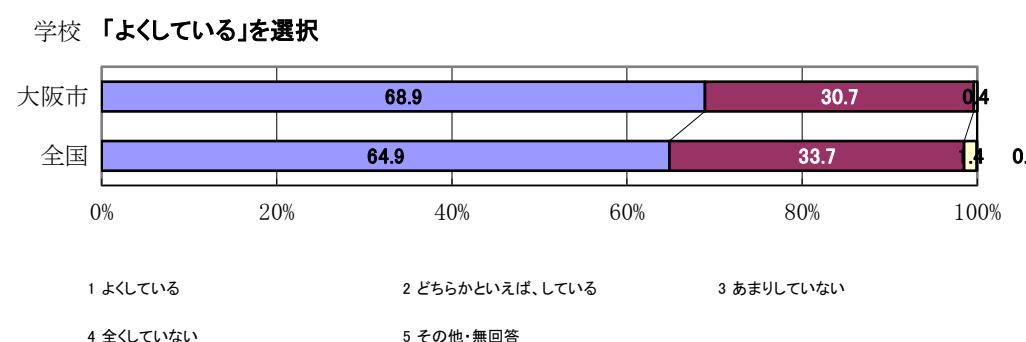
17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか



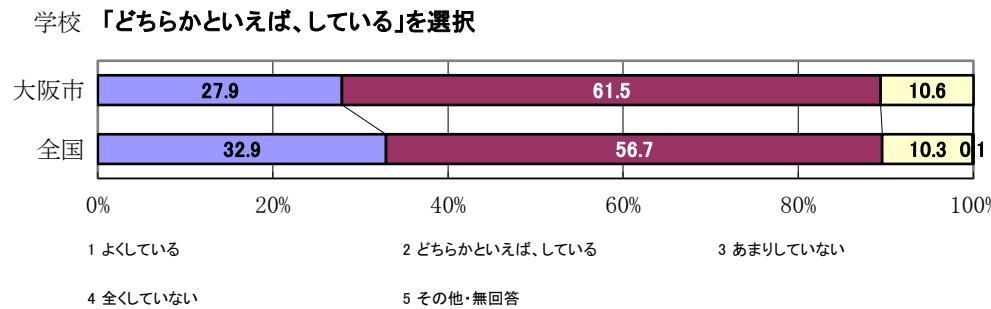
18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



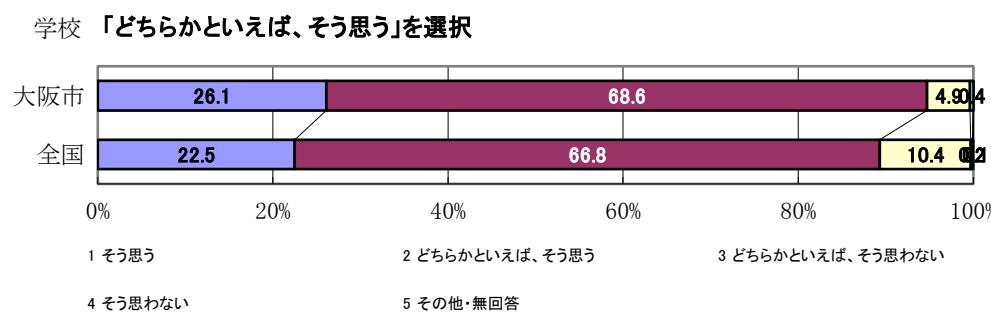
19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

